

第5次調布市男女共同参画推進プランの取組状況に対する意見

調布市男女共同参画推進プランに基づく各重点事業の実施状況について、調布市男女共同参画推進センター運営委員会として、次のとおり意見する。

- 令和6年度における重点事業の実施状況を調査・分析した限りにおいて、各所管課がそれぞれの行政目的達成に向け各種事業を推進する中で、いずれの事業についても、おおむね男女共同参画の視点を持って取組が実践されていると評価する。なお、留意事項として、以下のとおり指摘するとともに、全体を通じて、評価指標の数値から社会全体の流れや世の中のニーズをより一層的確に捉え、今後の取組に反映していくことを期待する。
- ・ 固定的な性別役割分担意識について、新たなテーマでの講座の実施などに取り組んでおり、評価指標の数値が毎年度上昇し続けていることは、こうした取組の効果であると思料する。引き続き、固定的な性別役割分担意識の解消に向け取組を推進されたい。
 - ・ リプロダクティブ・ヘルス／ライツについては、女性と比較して、男性の理解が進まないことに課題があると受け止める。男性を対象とするもの、特に、中高生や大学生など若年層に向けた啓発により、男性の理解促進に取り組まれない。なお、評価指標が個人の主観に由来する数値となっているところ、評価に当たっては、客観性確保の観点から、女性特有のがん検診の受診率など定量的な数値に着目することも、検討されたい。
 - ・ DVに関する相談窓口については、実際にDV被害で困っている方に知ってもらうこと、すなわち、必要な方に必要な情報が届いていることが重要である。DV被害に遭う可能性が高いと思われる年齢層により伝わりやすい周知方法を検討するほか、どのような手段で相談窓口を知ったかを調査・把握のうえ周知に創意工夫を凝らすなど、評価指標の数値の上昇に向け、より効果的な周知に取り組まれない。
 - ・ ワーク・ライフ・バランスの実現についても、必要な方、実際に子育て中の方に対し、子育てに関する施策の情報が届かなければならない。このことを踏まえ、更なる周知に取り組まれない。また、一步ずつ進んできている女性の社会進出を加速させるには、男性の家事・育児参画の更なる推進が重要と考える。男性は、家事・育児に取り組んでい

る同性が身近にいることで意識が高まると考えられるため、父親を対象とした子育てに関するグループ相談の実施は、評価できる。これまでの取組を継続するとともに、事業者が主体となって、男性従業員の育児休業を含めた休暇等の取得促進を図るなど、男性の意識醸成につながる取組を推進されたい。

- ・女性の活躍推進については、再就職をテーマにした講座等が実施されているところ、評価指標の数値の上昇から、この取組が一定のニーズを捉えていると受け止める。他方、近年、共働きで就労を継続する女性も増えてきていることから、新たなニーズに対応すべく、就労を継続する中での悩みに関する相談会や専門相談の実施に取り組むことを期待する。
- ・あらゆる分野・活動における男女共同参画の推進については、次代を担う子どもたちが、当然に男女が対等であるとの意識をもったうえで社会に出ていくことが重要である。学校における評価指標の数値が低下した原因を分析し、今後の取組につなげられたい。
- ・市役所における推進体制の充実のための取組として、職員向けに実施しているセミナーは、男性の家庭と仕事の両立や、女性のキャリアアップにつながるものであり、評価できる。これらを通じて得られた知見を市民向けの講座にも生かせるよう、関係部署で連携して取組を推進されたい。

令和7年7月31日

調布市男女共同参画推進センター運営委員会

委員長 神永 典郎

副委員長 金子 ひろみ

委員 浅野 愛

委員 五十嵐 耕大

委員 片岡 寛子

委員 篠田 進

委員 林 祥子

委員 森下 純一

委員 山本 弥和